

北大阪急行電鉄ではハード・ソフトの両面でバリアフリーを推進しています。

1. ハード施策

① 旅客案内情報装置の各種表示機能の追加

- 旅客案内情報装置は、全駅（千里中央駅・桃山台駅・緑地公園駅）の改札口に設置しており、通常時は企画乗車の案内やイベント情報、マナー啓発画面を表示しています。また、災害時の緊急情報や列車の運行情報などをリアルタイムで一括配信することにより、聴覚障がいをお持ちの方にも迅速な情報発信を行っています。

①-1 行先表示機能の追加（2023年3月）



①-2 多言語表示機能の追加（2024年3月予定）



② 係員よびだしインターホンの機能の追加

- 係員よびだしインターホンは、インターホンを通じて当該駅または遠隔室（千里中央駅）の係員と通話ができる設備で、遠隔でお客様のご案内を行います。2020年6月には、全インターホンに耳マークカードを設置、2023年3月には筆談機能を追加したほか、音声によるインターホンの位置案内機能を追加し、すべてのお客様が使いやすい設備を目指しております。



2. ソフト施策

① サービス介助士の資格取得推進

- お年寄りやお身体の不自由なお客さまに気持ち良くご利用いただくために、介助の知識と技能を認定された「サービス介助士」の資格取得に取り組んでいます。
- 令和5年（2023年）7月末時点の資格取得率は運輸従事員で 100%（※新入社員除く）となっています。

② 段差・隙間解消状況に関する情報提供

- 「らくらくおでかけネット（公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団）」を活用し、各駅の段差・隙間解消状況に関する情報を提供しています。